



関西支部会

K A N S A I

会報

三医会関西支部会事務局

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町2-20-21

医療法人 杉本眼科

杉本 浩一

TEL 06-6624-1985

FAX 06-6624-6291

病院再開発の進捗状況について

三重大学大学院医学系研究科 腎泌尿器外科学分野
教授 杉村 芳樹 (S 53年卒)



新病院再開発にあたって、基本理念は以下の3つです。

- (1) 患者様の信頼と満足が得られる最高・最良の医療を安全に提供する。
- (2) 地域医療に貢献し、医学・医療の国際交流に務める。
- (3) 未来を拓く臨床研究を推進し、次世代を担う医療人を育成する。

このような崇高な理念のもとに、改築工事が2008年1月よりスタートしております。なお、新病院の再開発は3期に分かれており、まず第1期において病棟の再開発、2期において中央診療部門および3期において外来部門の再開発となっております。3期が完了するのが平成28年とのことですが、2・3期が前倒されて工期が早まる可能性があります。とりあえず1期の病院再開発は平成23年11月に完成し、移転が行われる予定となっております。以下、新病院の概要を示します。新病院は、旧附属病院の精神科病棟およびMRI棟があった場所に、鉄骨鉄筋コンクリート造の12階建ての免震構造による病棟・診療棟が建設されます。建物の形も旧病院の十字型から三角形型となり、多くの病室は伊勢湾を臨む見晴らしのよいオーシャンビューとなっております。病床数は685床であり、4床病室が中心となり、6床病室はありません。また、個室率は31%となっております。現病院での個室率(約10%)に比べ大幅に増加しております。また、VIP用の特別個室も用意されます。基本的な病棟配置としては、現在の診療科単位ではなく、臓器別、小児フロア、女性フロア等により配置されます。

さらに各病棟に感染対応室が設置され、病棟食堂およびサテライトファーマシーが各フロアに設置されます。中央診療部門としては、救急外来のスペースの大幅増や救急専用エレベーターが設置され、総合集中治療センターへの直通となります。総合集中治療センターは34床あり内救急系は20床となっております。また、光学診療部(内視鏡、中央放射線部、血液浄化療法部などのスペースも大幅増となります。手術部に関しては、外来手術併用1室を含め12室となります。また、新病院では展望レストランが開設され、屋上にはヘリポートも設置されます。なお、臨床研究棟、基礎医学研究棟および管理棟も耐震リニューアルして、すべてのハードが新しくなっております。その素晴らしいハードにふさわしい内



容のある診療・教育・研究が求められますので、今後さらに精進したいと思っています。次第です。

最後になりますが、関西支部会の先生方のますますのご発展とご活躍を祈りいたしますとともに、三重大学医学部へのさらなるご支援とご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

支部長の挨拶



杉本 浩一 (S 42年卒 大阪府)

平成17年2月の支部総会(於神戸市)で支部長に就任させて頂き、平成20年の支部総会(於京都市)で再び選出して頂いては5年が経過し私の任期も最後の1年となりました(会則で支部長の任期は2期6年まで)。従前にもまして会務に努力し会員諸兄の親睦と融和を推しすすめてまいりますのでご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成21年8月30日衆議院総選挙において民主党は「国民の生活が第一」、「コンクリートから人へ」など一見肌ざわりのよい数々のマニフェストを掲げ国民の心を捉えて圧勝しました。その結果政権交代となりました。この10年にわたって医療費抑制政策が続いたため医療崩壊を来したという世論の後押しもあって平成22年度の診療報酬改定は平成14年度以来の10年ぶりのプラス改定とは言え改定率+1.55%(薬価などの1.36%の引き下げと相殺して)で全体改定率+0.19%と期待したほどの改定とはならず財源の問題もあってマニフェスト通りとはなりません。とはいっても私の私達医師は「地域医療を維持し地域住民に安全で質の高い医療」を提供しなければと各会員の方々はご活躍のことと思っています。この様な厳しい医療情勢のなかで母校の発展ふりには眼を見張るものがあります。新病院の新築工事も順調に進み、また大学病院としての機能も十二分に発揮していますので関西の地からその発展を祈っています。三医会本部と関西支部との連携も川原田会長のお陰で益々強固なものとなっております。(詳細は三医会会報をご高覧下さい)

平成21年関西支部総会は平城京遷都1300年を記念して20年ぶりに奈良県の先生方のお世話で無事開催されました。この3月に卒業された13名の新研修医の皆さんが関西地区で前期研修を開始されました。この方々の歓迎会を例年通り5月下旬大阪市において盛況裡に開催しました。平成22年の支部総会は2月6日(日)大阪市で開催します。多数の会員の出席を宜しくお願い申し上げます。



日の丸ドラッグを目指して

京都大学医学部形態形成機構学教室

(旧第一解剖学教室)

萩原 正敏
(S59年卒)

僕は、フラックジャックになりたくて（どこかのコミックのタイトルにあった？）地元の三重大学医学部に進んだが、治らない病気はどんな名医も治せないという当たり前の事実、専門課程に上がったあたりで漸く気が付いた。全くおめでたいほど、と悶が抜けた田舎の大学生であった僕は、治らない病気を治すには新しい薬を作るしかない、と、医学部の途中から薬理学講座の片隅を借りて、実験の真似事をさせて頂いた。医学部生に義務付けられた講義・実習を落第寸前までさぼって研究室に泊り込み闇雲に実験するうち、TCBと名づけられていた化合物がカルシウム依存性PDEを阻害して血管平滑筋を弛緩させることを偶然見出した（この化合物は後日、脳循環改善薬カランとして武田製薬より上市された）。この典型的なビギナズラックに有頂天になったのと、研究者というのは夢追い人なんだからという研究室の先輩の呟きに単純に共感し、自分も不治の病を治す薬を作るといふ夢を追いつづけよう！と臨床研修をせずそのまま大学院に進学して薬理学を専攻した。

大学院を出て名古屋大学の薬理学講座で2年余り助手をした後、サンディエゴのソーク研究所での1年余りの留学生生活を終つて名古屋大学医学部解剖学講座に移つたが、研究費も人手も研究機材もなく、学生をつかまえては、「生命の新しい制御機構を見つけて新薬を作る」と、文字通り夢のような話ばかりしていた。大した研究費もないまま、研究上必要な試薬は構わず購入したので、一時は莫大な借金を抱える破目になつた。冷蔵庫を買つたお金も惜しいので、パン屋さんの店先に捨ててあつた冷蔵庫をもらつてきてしのでいた極貧の時代だが（研究室にグリコやコカコーラのマークがついた冷蔵庫が並んでいた記憶がある）、不思議と熱意のある学生さんばかり集まつてくれて愉しく活気のある研究室であつた。どう考えても当時はいろいろな意味で苦しかったはずなのだが、今では幸福な思い出しか思ひ出せない。創薬には莫大なお金がかかるので、製薬会社はマーカーケツト二スを考慮した事業開発計画を立てる必要があるのだそう。要するに新薬で救える患者が世界に何人いるかの問題ではなく、開発した新薬の売り上げが幾ら見込めるかを基準に、新薬の開発計画や優先順位が決められる。それゆえ、遺伝病など希少疾患、黄熱病やデング熱など熱帯の貧困層しか患者のいない感染症などに對する新薬開発は、大手の製薬会社は諦めて常手がけない。こうした疾患に對する薬こそ、大学のような公的研究機関が中心となつて、開発を進めるべきではないだろう。

か。この夏、東京医科歯科大学から京都大学へ移るが、新しい場所です。首尾よく新築ができたなら、白地に赤い点を描いた鋸割にして「日の丸ドラッグ」と称してみたい。ODAで建物や橋を作っても日本が援助したと現地の人々は気付かないケースも多いが、日の丸ドラッグ飲んで命が救われれば、日本に対する敬意と感謝が広まると期待される。これこそ文字通り“Show the flag!”であり、我が国に相応しい安全保障政策となるのではないかと。

がん診療と地域連携パス

大阪市立総合医療センター 乳腺外科

部長 小川 佳成 (S63卒)

H22年の春から地域連携バスを用いた診療連携の保険点数が750点と300点で収載されました。多くの先生には耳慣れない言葉かもしれませんが、大阪府では既に「5大がん」の連携バスが作成、導入されています(www.mc.pref.osaka.jp)。私も府立成人病センターの石飛先生とともに乳がんバスの作成に携わっていました。



がん診療の専門性がアピールされ、

者集中により、各施設で外来は機能不全状態となりました。急患や重篤な患者のために充分な時間を取ることも出来ない状況です。このような状況を改善するために地域の医療機関が協力し役割分担を行うことで、医療資源を有効活用し、患者の通院の負担も軽減しようと考えられた制度です。

一般の診療所で“がん診療!?”と思われる方もいます。しか

し、がん診療で専門性が発揮されるのは診断と初期治療であり、安定期の患者には専門性が不可欠なものではありません。むしろ拒癌状態やがん治療後の人には総合診療が必要となります。専門病院では、限定した曜日に受診、午前中だけ、長い待ち時間、専門細分化により腰が痛いからついでに見てとは言えず、その都度仕事を休まねばならぬ人、高齢の人が苦労します。体調が悪くなったから見て欲しいけど、予約は1ヶ月先までとれず、予約外で行けば長時間待たされ、調子が悪くて来たのに長時間命を削る想いをしなくてはならない。もし近隣に気軽に相談できる「かかりつけ医」がいれば、解決できることも多いはずですよ。

かかりつけ医により専門性は異なります。専門性の不足を補

うものが連携パスであり、専門医、かかりつけ医、患者の三者間での「情報の共有」を行う手段と考えて下さい。連携パスによる診療連携とは新しい制度ではなく、従来の病診連携かかりつけ医制度の進化形と考えています。あれば便利な道具です。これからの診療で見かけることがあれば、可愛がってやって下さい。興味のある方は、『癌と化学療法36(7)1115-1118, 2009』、『癌と化学療法37(9)2010掲載予定』や <http://clinicapath.jp/library/index.html> などをご参照下さい。

私の「愉しみ」

杉山 茂男
(S24年卒 京都府)

「あなたの愉しみ」と問われると何と答えてよいのかと少し迷うのですが、多くの愉しみ」の中でもまず第一に「能面作り」を挙げたいです。昭和49年に石倉耕春師匠の「能面教室」に入れて頂き以来、三十数年間の長い間にわたっているいろいろな能面を彫りました。その数は50面を超えますが手元に残っているのは36面です。能面の種類は36種類で新築祝い、結婚祝いなどに差し上げるとその後すぐに同じものを彫って補充するようになっています。進呈させて頂くと大変喜んで下さって御礼などと言われるとついつい感激して「能面作り」への意欲がかきたてられます。私が最も多く作成するのは「翁面」でその他に若女、小面、大飛出、小牛尉なども彫ります。

昨年「能面に魅せられて」というタイトルで作品集を発行することが出来て長年の目的達成することが出来ました。これからはとも作品数を増やすように取り組んでいます。が寄る年波にはいかんともし難く体力、気力や視力低下などのためしだいに細部の作業が思うように捗らず、若い方や師匠の手助けを受けながら頑張っています。とはいってもちかごろ狂言面にも興味が沸くようになって、空吹などの面の作成にも取り組んでいます。

能面の世界は大変奥が深く、能楽と面の関係やその由来などを教
えられて作品を作成していくうちに面の表情も自ずと理解でき
るようになって来ます。彩色の様
子、毛書の難しさを参考とする古
面の写真を眺めながら作業を進め
て行っているのですが、完成さ
れた域に到達するのはなかなか難
しいものです。少しずつ皆さんの
ご意見を聞きながら続けています。



私の愉しみの「能面作り」が今日まで生きて来た証のひとつになれば幸いです。



Information

三重大学カレーとは・・・

練習船「勢水丸」は三重大学大学院生
物資源研究科に所属し、実習や研究航海
に就航しています。この船でのカレーの味が
好評だったためこの度大学ブランドとして
誕生しました。
製造元・ヤマモリ株式会社(桑名市)。
東急ハンズにて販売されています。
三重大学時代を懐かしんで一度お試し下
さい。



平成23年三医会関西支部総会のご案内

日時 2月6日(日)午後1時～
場所 ホテル日航大阪
大阪市中央区西心斎橋1-3-3
TEL 06-6244-1111

みなさま
奮ってご参加下さい

研修医として働き始めてから1年が過ぎ、時間の経つ早さに驚いています。少しばかりですが、研修医生活を報告させていただきます。

内科の研修では、専門分野ごとに回るのではなく、様々な分野を一度に担当するので、ある程度入院期間が長い患者さんでも、入院から退院まで担当することが可能です。そのため、患者さんだけでなく御家族とも話し合いの機会を持つことが多く、医学的知識だけでなくコミュニケーション能力の大切さを身に染みめています。

外科の研修では、主治医としてのプレッシャーは内科以上に、指導医の先生方に色々御指導いただきながら、時には数日間病院泊まりの生活もありました。また、基本的にはルートや採血は看護師さんが取ってくれるのですが、外科では採血当番が毎朝あり、大変成長したと思います。

産婦人科の研修では、当院ではリスクのある症例はあまり扱っていないのですが、幸か不幸か、子宮穿孔、子宮外妊娠の破裂など「shock vine」の症例を連日経験することができました。

以上のように簡単に述べてきましたが、全体の雰囲気としては部長クラスの先生が研修医の席が集まっている場所に来て、たわいもない話をして笑いが起こるくらいアットホームな雰囲気です。

担当患者でわからないことがあれば他科の先生方にもコンサルトしに行くことも多く非常にコンサルトしやすい環境にあると思います。これから勉強に励みつつより一層気を引き締めて研修生活を送っていこうと思っています。



市立池田病院での研修医生活

手島 昌之 (H21年卒)



大阪労災病院での初期研修医生活

石山 絢野 (H21年卒)

今年は例年になく厳しい暑い日々が続いていますが皆様いかがお過ごしでしょうか。卒業後は生まれ故郷の大阪(阿倍野区、天王寺高校出身)に帰って来て堺市にある大阪労災病院で初期研修を行なっています。これも平成20年三医会関西支部の「夏の会」に於いて大阪労災病院の習田龍先生(内科、循環器科)との出会いがきっかけでした。この度、大阪労災病院での研修生活について僥倖ながらご報告させていただくこととなりました。後輩の皆様には少しでも進路決定の参考になれば幸いです。

私が研修先としてこの病院を希望した理由には、病床数の多い病院であり症例が豊富である点、指導医の先生方の研修医へのこまやかな行き届いた心づかいのもとで、若手の先生方が積極的に動き切磋琢磨しておられたのが印象的であった点などでした。いざ働き始めてみますとこの病院に決めてよかったと思っています(自分は幸せだなーと思っています)。時間に追われながらの毎日ですが、先輩方に支えられながら、また先輩方のモチベーションの高さに日々刺激を受けながら、仲の良い同期達とともに有意義な研修生活を送らせていただいております。

循環器内科副部長習田龍先生をはじめ、三重大学を卒業された先輩方がおられることも非常に心強いです。

来年からの進路(後期研修)は幸運にも循環器内科を専攻することが出来るようになりました。希望科であったとはいえ、実際ローテートして初めて、これまでの自身の認識の甘さを痛感し、自分のできるかどうかと本当に悩みました。女医にはどうかと反対意見も多々あり多少の不安は残っていますが、今はそれ以上に、教えを乞いたいと思える先生方がたくさんいらっしゃるこの恵まれた環境に感謝しています。

日々反省と猛勉強の毎日で医師としてまた一人の社会人として精神的にも成長していきたくと思っていますが、まだまだ未熟な面ばかりで諸先輩の先生方からこれからも御指導を賜って患者さんから信頼される臨床医になるように精進して行かねばと思っています。御鞭撻の程を何卒宜しくお願い申し上げます。後輩の諸君はよりよい研修病院とのマッチングが出来ることを心よりお祈り申し上げます。私達研修医は出身した大学はお互いに異なっていますが皆仲良く各自の与えられた仕事を頑張ってこなし適当に飲み会やリクリエーションなどで息抜きをして研修生活をエンジョイしているこの頃です。

三医会関西支部役職者一覧表 (敬称略)

◆支部長	杉本 浩一 (S42年)	◆監査役	庄村 東洋 (S36年)
◆副支部長 (各府県1名)			安藤 仁郎 (S38年)
大阪府	薩山 充 (S52年)	◆勤務医会代表の理事	
京都府	石田 晟 (S39年)		岡田 行功 (S49年)
兵庫県	松原 隆 (S54年)		林田 孝平 (S50年)
奈良県	西川 勝仁 (S53年)		斉藤 徹 (S52年)
和歌山県	中村 光作 (S53年)		習田 龍 (H7年)
滋賀県	山形 高志 (S51年)		豊川 貴弘 (H10年)
◆専務理事			武内 真有 (H16年)
総務	宇野 敦彦 (H5年)	◆開業医会代表の理事	
	高澤 正志 (H8年)		布谷 隆明 (S49年)
会計	猪尾 芳弘 (H7年)		細野 進 (S51年)
	陳 慶祥 (H7年)		倉田 順弘 (S54年)
厚生	小川 佳成 (S63年)		山下 宜繁 (S59年)
	西原 承浩 (H1年)		有山由布子 (S63年)
I T	譜久山 仁 (H10年)		町田 英世 (H2年)
	辻川 薫 (H5年)	◆名誉支部長	杉山 茂男 (S24年)



▲関西支部総会 集合写真
平成22年2月22日
於 奈良市 沢沢荘



◀関西支部「夏の会」
歓談風景
平成22年5月29日
於 大阪市 安倍乃莊